

アガパンサス

2017 年 11 月 5 日
 発行 東海教区女性会
 発行責任者 櫻井國江
 印刷 アド・アール(株)

神の愛に生かされて ～励まし合い、互いの向上に努める～

主題聖句 心を新たにしてお自分を改めていただき、何が神の御心であるか、何が善いことで、神に喜ばれ、また完全なことであるかをわきまえるようになりなさい。

ローマの信徒への手紙 12 章 2 節より

【巻頭言】



赦しが、怒りに勝利した

小鹿教会・清水教会牧師 秋久 潤

いなくなっていたのに見つかったのだ。祝宴を開いて楽しみ喜ぶのは当たり前ではないか。
 ルカによる福音書 15 章 32 節

聖書には、怒る人がよく出てきます。ヨナ書では、ヨナが主に怒ります。理由は 2 つあり、悔い改めた敵国ニネベを神が憐れんだことと、これまでの自分のやってきたことは何だったのかというやるせなさです。主は、ヨナに「あなたは怒るが、それは正しいことか」問いかけ、思い直すように勧めます。

これと似た物語に「放蕩息子のたとえ」(ルカ 15:11-32) があります。兄は、父と共に真面目に生きてきました。その点、神に不従順だったヨナとは違います。とはいえ兄も、身勝手な弟が悔い改めて父に受け容れられたことと、自分のこれまでの生活は何だったのかという思いから怒ります。この怒りには、一見正当性があるように思えます。なぜなら、弟が父に財産の生前分与を望んだのは、当時の慣習では「お父さん、私はあなたが死ぬのが待ちきれません」と言うことに等しいからです。

これらの物語の中心は、父の愛です。言い換えれば、悔い改める罪人を受け容れる愛(父の受容)です。ヨナも兄も、「父の受容」を受容することが求められています。しかし、怒りがそれを妨げます。こうしてみると、「正義」と「赦し」の共存は難しいと考えさせられます。正しく生きてきた人にとって、罪人が赦される愛など、都合が良すぎて受け容れがたいものなのかもしれません。

しかし、父が中心となって働きます。旧約でヨナを遣わしたように、新約でイエス・キリストを世に遣わし、十字架によって人間の罪を赦して受け容れました。十字架の周囲では、人々がイエスに怒りの声を挙げています。この十字架は、神から人間への怒りの表れでもあります。しかし、その十字架に、神ご自身であるイエス・キリストが掛かっているのです。イエスの十字架は、「神が、神の怒りに勝利した出来事」です。赦しが、怒りに勝利したのです。

休会中の 1 女性会を除く全女性会の生き生きと活動されている姿を掲載しました。
これからも繋がる喜びを共有し、証し人として励まし合って歩めますように！

女性会は今 <<6>>



名古屋めぐみ教会女性会

見る時、神と共に生きることの喜び嬉しさ、有難さを何時も感じさせられます。

女性会は、教会の要

野村啓子

女性会は、教会の要です。教会や地域の皆様が楽しいひとときを過ごすことができるように心を一つにして働きます。祝会では、テーブルの上のところ狭しと料理が並び、老若男女が美味しい御馳走に舌鼓を打ち、イースターやクリスマスを祝います。バザーでは、手作りのリースやケーキなどを出品し、名物ちらし寿司と共に完売です。

私は、神さまの前で祈り続けてこられた先輩を手本にし、後に続く者になりたいです。



岡崎教会女性会

幼児洗礼を受けられた子どもさんと共に

今井よし乃

私が岡崎教会の女性会の最年長となりました。若い頃は同世代の方も多く、幼児洗礼を受けられた子どもさんと共に礼拝を守りました。

イースター受洗嬰兒は拳振る
冬ばらや受洗嬰兒の名は初穂
母の日に祈る児四才聖堂に
待降節ます光り出す児等の顔

これらの子どもさんが成長され、
教会で結婚式をされたことをお聞きする度に感謝です。

神様が共に集いの中に居られ感謝

福岡美恵子

岡崎教会女性会の集いは少ない人数ですが、第 2 日曜日午後 12 時 30 分からの聖書研究は楽しいひとときを過ごします。聖書研究は神様が共に私たちの集いの中に居られ感謝です。

今後の女性会について問題点はいろいろありますが、その一つとして、若い世代の方が入会してくださることを心から願っています。来年 4 月からは礼拝時間が午前中になりますので、女性会は礼拝後になります。今後とも女性会が存続できることを願い祈っています



小鹿教会女性会

様々な才能に恵まれ



鈴木暁美/細倉道子

毎月第2水曜日(10:30~12:00)女性会例会を開催し、連盟会報聖書研究をテキストに、秋久牧師から学び、意見交換をします。その後お茶をしながら報告・話し合いなど楽しい時を過ごします。又、平日仕事で例会に参加できない方のために、月に1度礼拝後に、聖書に聴く会(創世記からスタートし今年度は申命記)を設け、聖書を学びながら交流を深めています。



メンバーは決して多くはありませんが、皆さん様々な才能に恵まれております。お菓子作り・ピサンカ&キルト作り・オルガン奏者・お料理・フラワーアレンジメント・畑での野菜作り・古着の選別目利き? 等等など。

女性会の活動内容は、お客様や聖壇交換で牧師がいらした日は、2つのグループが交代で愛餐会のために昼食作りをし、クリスマス等各行事では、全員で食事・お菓子作りをします。又、バザーでは、地域の方々が行列を作って、手作りお菓子やキルト等を買って求めています。清水教会の方々との交流もあり、合同女性会を年1回行い、小鹿教会のバザーにも協力してくださっています。 * ピサンカ P8: カラーでご覧下さい。



栄光教会焼津礼拝堂女性会

フィリピンの子ども支援 中野裕子

平均年齢がかなり高めの小さな群れですが、いざという時には底力を見せます。月例の女性会では、連盟会報の聖研に従って、その月の当番が発題した後、語り合います。

活動のひとつとして、35年ほど前NPO「チャイルド・



食事会の準備中
まぐろの刺身切ってます。

フォンド・ジャパン」を通して里親となり、主にフィリピンの子どもの支援を続けています。現在は5人目。送られてくる成績表、成長記録やクリスマスカード等で子どもの成長を皆で喜びあうことのできる幸いを神様に感謝しています。会員数も減り、いつまで続けられるかわかりませんが、出来る限り続けていきたい活動です。



次週の聖書の箇所にしおりを♪

楽しく奉仕できました 沼野寿子

焼津女性会が47年間もの長きにわたり続けてきたことは、重度障害施設「やまぼと学園」での繕いもの奉仕です。近隣のカトリック教会・キリスト教団の教会・焼津社協のボランティアグループと共に、月一回の奉仕を続けてきました。高齢化により、残念ながら今春その活動を終えることになりました。これまで楽しく奉仕できましたことを神様に感謝いたします。

2017 年 9 月 16 日 於 浜松教会

第 6 回 女性会の集い 参加者 98 名



午前 開会礼拝 〈司式説教〉 渡邊克博牧師
講演

演題 「女性たちの宗教改革 500 年」
講師 平岡仁子牧師

午後 グループ懇談会
閉会礼拝 〈司式説教〉 渡辺高伸牧師



渡邊克博牧師



平岡仁子牧師



渡辺高伸牧師



勇気と希望と信念を持って強く生きた女性たち

新霊山教会 中川和子

平岡先生の講演内容は私にとってはとても高度な内容でしたが、今まで全く知らなかった内容のお話でしたので逆に良き刺激でもあり、とても勉強になりました。

アルギュラやカテリーナという当時の女性たちが、宗教改革者たちと交流をし、女性たちの考え方や活動がルターの宗教改革に少なからず影響を与えたことはあったと思います。今から 500 年余の前に、今の私には到底考えられない状況下の中で勇気と希望と信念を持って強く生きた女性たち、現在でもそれは充分、生き続けていると思います。

ここ東海教区に福祉村を設立し、特別養護老人ホーム、児童養護施設まきばの家、こひつじ診療所ができましたが、そのきっかけも小さな女性会の思いと活動が、教区までも動かすパワーとなっていたのですから。

これから先も、私たちは今なすべき使命を見出し、神様から祝福される働きをしていかなければならないと思いました。



いただいているタラントを使って

高蔵寺教会 浅井道子

今回の「女性会の集い」は「女性たちの宗教改革 500 年」ということで、どんなお話が聴けるのか、とても楽しみにして参加しました。

ルターが尊敬した女性アルギュラと、ルターの妻カテリーナという二人の女性についてお話を聴きました。二人共、私にはとてもマネのできない行動力と思いをもった女性で、とても感動しました。

後半はグループにわかれ、意見・情報交換をしました。いろんな教会の方とお話できる良い時間となりました。教会の中での女性の役割・男性の役割はどのような感じか。男性が少ないという教会が多く、今後の不安や課題も出ました。高蔵寺教会も役員は全員女性という女性の多い教会です。だからこそできる宣教のあり方、歩みを皆で試行錯誤しながら、日々神さまに感謝し、教会のため・神さまのために、私がいただいているタラントを使っていけたらいいな、と思っています。

神様からのたまもの

浜名教会 瀧本直子

午後のグループ懇談でのこと。自己紹介を兼ねて、簡単な感想を言い合ひましょう、ということになった。ある年配の女性がお話しされた。その方は昭和 46 年から確か平成 9 年まで、お寿司を握ることをお仕事とされていたそうだ。そして心から嬉しそうに「お寿司を作ることは私にとって神様からのたまものです。」その言葉に私はハッとした。社会で目立つ活躍をする女性、社会でリーダーになる女性。それが社会進出を果たした女性だと私は思いこんでいた。若い頃から体が弱く、ろくに働いたことがない私。だからか余計に理想だけが頭にあった。その女性は、今でも何かあるとお寿司を握るの、とおっしゃった。一生懸命働いてきたであろう女性は、目立たないけれど、お寿司を握ることで周りの方達を幸せにされてきたことだろう。神様はお寿司を握るこのかたを通して、ご自身が人々と接してこられたのだ。働くことは尊い。歴史に残らない事でも。何が出来るかはその人によってそれぞれだろうが、神様はその人に与えられた“出来ること”を通して働かれる。私にも小さくてもささやかでも、きっとあるのだろう、神様のたまものが。



助け理解し、応援し続けた女性たち

みのり教会 渡部さよ

私は、ルーテルの教会員でありながら、今までルターのことについては、ほとんど何も知ってはいませんでした。しかし、今年ルターの宗教改革から 500 年の年だそうで、色々な場所で、時々で、ルターの事を知り学ぶ機会がありました。ルターって人は、偉い人なんだなあと思いました。ルターは、どうしたらそんなに立派な人になることができたのかとも思いました。

そんな時「女性たちの宗教改革 500 年」と題して、平岡仁子先生のお話を拝聴することができました。やっぱりそうでした。事を成した立派な人には、その背後や周りで、彼を助け理解し、応援し続けた女性たちがいたんだ。今からずっと昔の 16 世紀に、勇気があって、信仰が深くて行動力があつた婦人たちがいたことを知りました。21 世紀の今を生きている私達女性も、見習うところ大いにありと思わされました。



『第 6 回 女性会の集い』グループ懇談まとめ

講演をお聞きしての感想

- ・宗教改革の時代の女性にスポットが当てられた女性会ならではの講演会で良かった。(数名)
- ・女性が認められていない時代にアルギュラはよく頑張った。初めてアルギュラのことを聞いて感動した。勇気や発言力においても男性に負けていないところ、ルターの出版物すべてを読み、当時の神学者の行為に対して抗議文を出版したとは！素晴らしいと思った。(数名)
- ・伝統を重んじながら聖書をよく読んで発言したアルギュラ、個人の考えが重要。なにが御心にそうものなのか自分でよく考えて、きちんと発言できる女性でありたいと思った。(数名)
- ・ルターの教えさえ認められない時代にアルギュラという女性宗教改革者が出た事に感動。(数名)
- ・信仰を貫いた素晴らしい女性のことをこんなに詳しく聞くことができ、同じ信仰を持つものとして深く考えさせられ、励まされた。(数名)
- ・カテリーナの思いはルターの文章を通してしかわからないということを知ることができた。
- ・ルターの背景には、家庭で支えたカテリーナ以外にルターの提言を応援し、出版物まで出した女性がいたのだということを知ることができて良かった。

ジェンダーとは？ 教会の中、家庭、社会で変わってきている？

- ・ジェンダーの言葉そのものが新しい。弱そうに見える女性も案外強かったのではないかな。
- ・教会の中では男女差が感じられないが、生活の場では全く違う。
- ・男性が食事会の片付けや礼拝後お茶を入れてくれ、いつの間にかそれが自然になっている。
- ・女性の経済的自立のために家事は完全分担、女性の有り方が変われば男性も変わる。
- ・「イクメン」が育児をしてなぜ褒められるのかという小学生の投書があった。
- ・今の若い人たちはごく自然に家事を分担してやっている
- ・教会の愛餐会は始めから終わりまで女性がやっている。みんなでやるべきではないか。
- ・役員会などの構成は、「男性 40%、女性 40%、青年 20%」が理想的だと言われるが、現実には教会の中では女性が多く役員は全員女性だったり、女性の方が多き教会もある。
- ・昔は教会に行っていることを隠していた。今は、「私はクリスチャン」と言えるだけ幸せ。
- ・死ぬまでみ言葉を伝えたいという思いを今日、強くした。教会に行かないと生きていられない。
- ・高齢化のため体調不良で出席できない人が増えている。若い人が少ない。体の悪い人も集まりやすい教会になるといい。
- ・二人ずつペアで、教会に来られない人、しばらく離れている人を、週報などを持って訪ねている。
- ・礼拝の中でみ言葉を聞き、恵みを一つでも受けて積み重ねていきたい。
- ・地域の方々は、教会では何をしているんだろう・・・という目で見ている。信徒の地域での奉仕等の姿も。

女性会のあり方

- ・女性会は仕事を持っている人や若い人が参加しにくい。
- ・教会は故郷のようなところ。女性会の集いで懐かしい方に会えて嬉しい。
- ・いつまでも女性会が存続してほしいと祈っている。
- ・男性も女性会に組み込んでいいのではないかな。
- ・聖書研究だけは男性も入っている。
- ・女性が自由に活躍できる教会、連盟に憧れる。(文責 芳賀美江)

聖書の中の女性たち



【その6】

「ミリアム」 (旧約聖書 出エジプト記 15 章より)

栄光教会牧師 内藤文子

出エジプト記 15 章は、イスラエルの民の紅海横断を祝う詩を含んでいる。ミリアムと言う女性は、女性コーラスの指導者として、歌唱を指揮する。15 章 20～21 節には「アロンの姉である女預言者ミリアムが小太鼓を手に取ると、他の女たちも小太鼓を手に持ち、踊りながら彼女の後に続いた。ミリアムは彼らの音頭を取って歌った。～主に向かって歌え。主は大いなる威光を現し～馬と乗り手を海に投げ込まれた。～」とある。ここを研究している女性神学者は、15 章の「海の歌」は、モーセの創作で、ミリアムはそれを繰り返すだけと解釈することが多かったであろうが、帰還した勇士たちを歓迎しミリアムは歌唱者としてだけではなく歌詞の作者でもあったのではないかと言う。(参考となる他の旧約の資料も見出されている。)

イスラエルの二人の偉大な女性「デボラ」と「ミリアム」。その時代、最初から女性には立ち入り禁止であった唯一の身分は「祭司職」であった。デボラは裁判官・軍事戦略策士・女預言者。ミリアムは、歌唱指導者・女預言者。女性として、祭司でなくとも、二人はリーダーとして自分のタラントを神に捧げ奉仕したのであろう。

教会での賛美は、私たちの心からの喜びを解き放つ。皆で賛美することは大きな楽しみであり喜びである。ミリアムは、小太鼓を手に歌った。私たちもこれからも、「新しい歌を主に向かって歌え。全地よ、主に向かって歌え。」(詩編 96 編) と賛美し続けてゆこう。



これからの予定

2017 年

11 月 3 日 (金) 『宗教改革 500 年記念大会』 於 金城学院大学

基調講演「信仰によって義とされる」とはどういうことか。

〈日本ルーテル神学校校長・ルーテル学院大学教授 石居基夫〉

11 月 18 日 (土) 女性会連盟総・大会 第 2 回現地実行委員会 於 なごや希望教会

12 月 始 デンマーク牧場福祉会「ディアコニア」へクリスマスカードを届ける。

12 月 22 日 (金) デンマーク牧場福祉会「まきばの家 こどもの家」のこどもたちへの

2018 年

クリスマスプレゼントのクッキーなどを袋詰めし、カードを添えて届ける。

1 月 6 日 (土) 東海教区女性会会計監査

2 月 17 日 (土) 東海教区女性会定期総会 (案内 12 月発送) 於 栄光教会藤枝礼拝堂

6 月 7 日 (木) ～8 日 (金) 女性会連盟総・大会 於 ホテルメルパルク名古屋

11 月末までに (詳細別紙)

1. クリスマスカードを郵送して下さるか、手渡しして下さい。

2. 連盟総・大会への参加予定人数を電話・FAX・メールでご連絡下さい。

12 月 20 日に届くよう、手作りお菓子 (クッキーなど) を送って下さい。(詳細別紙)

ルターの結婚と家庭 - 6 -



大垣教会・岐阜教会牧師 齋藤幸二

私たちはルターのすぐれた教えや説教に対してだけではなく、彼の人間性にも魅力を感じます。彼は誠実な人でした。修道士になったのも誓ったことに誠実だったからであり、宗教改革に取り組んだのも、聖書博士になったときの「聖書に忠実に仕える」という誓いに誠実であろうとしたためでした。また私たちは改革を命の危険も恐れずに進めていったルターの勇氣にも感動します。しかし彼は決して気難しい人ではなく、気さくでユーモアがあり、豊かな音楽の才能があり、また困窮する人々に対する愛情を示しました。

しかしルターには良いところばかりではなく、欠点もありました。ルターはとても怒りやすい人で、一度怒り出すとその怒りはなかなかおさまりませんでした。「わたしが怒り出した時は一息つく間しばらくほうっておいて欲しい」と語っています。ある人は「神はルターの怒りやすい性格を用いられたのだ」とも言っています。確かにこのような熱情や神のことばを歪める事への怒りがなければ宗教改革は起きなかったでしょう。

しかしそのように激情型のルターの心のオアシスとなったのが、妻のカテリーナと子どもたちの存在でした。リュートを弾きながら家族と一緒に歌うとき、ルターは神から与えられている幸せに感謝し、心の安定を取りもどしたのです。

宗教改革 500 年を記念する今、わたしたちはルターの信仰や勇氣、愛情からも多くを学びたいと思います。そしてルターを支えたカテリーナや子どもたちのことも憶えたいと思います。



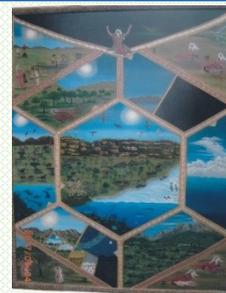
「イエスキリストの十字架と復活」
死と復活を 5 場面を描く 91×117cm



うちの教会の自慢

齋藤定義兄が描く
宗教画

「天地創造」146×112cm→
7 日間の創造と人間の創造



「ゲッセマネの祈り」112×146cm
主イエスの祈りのお姿

「イエスキリスト洗礼の模写絵」

独学で油絵を始め、キャンバスには訴えたい部分を中央に大きく、その他は周囲に簡素に描くことを基本とし、宗教画では忠実に聖書を描くことに至難の業が伴うことなどと述懐されていました。精魂こめた作品に対峙される篤信な信徒であり、淀みのない心で真摯に筆を執っている齋藤兄の意気込みと情熱が伝わってくるようです。 ◆沼津教会◆ 〈 一杉静子 〉



今年の

クリスマスカード



ピサンカ

〔編集後記〕

今期最終号となります第 6 号をお届けすることができますことを皆様と皆様へ感謝申し上げます。ご寄稿いただいた皆様方、特に連載して下さった齋藤牧師、内藤牧師にはただただ感謝です。(役員一同)